

年間指導計画を立案する際の参考資料

中学校 第2学年 「美術（光村図書）」

25時間（70%）

週	領域	題材名	題材の内容	時間数	留意点
1	B鑑賞 (1)ア	原寸大で鑑賞しよう 灰色のフェルト帽の自画像 1時間	筆の跡も鮮明な原寸大のゴッホの自画像を鑑賞し、色の組み合わせや筆を動かす方向について考えたことを話し合う。	1	・表現活動との関連を意識する。 ・作者の心情や意図について話し合う時間を設定する。
2 ～ 5	A表現 (1)ア	空想の世界を旅する	現実にはない世界を想像によって作り出す美術の働きに目を向け、平面や立体で表現する。	5	・制作する作品の大きさを制限することで、時間削減できるよう配慮する。 ・導入で多様な表現の作品を鑑賞する。
	B鑑賞 (1)ア	あれ？どうなっているの	目の錯覚などを利用して驚きや楽しさをもたらす作品の工夫や効果を学ぶ。「図と地の反転」「だまし絵」などの鑑賞を通して、形や色を効果的に使った仕掛けを発想する。	5	・制作する作品の大きさや材料を制限することで、時間削減できるよう配慮する。
	【選択】	想像の生物をつくる	想像の生物に自分の願いや夢を託し、発想を広げて形に表現する。	5	・制作に必要な資料収集やアイデアスケッチなど、構想を練る活動の補充は家庭で実施する。 ・軽量粘土など加工が容易な材料を使って制作することで、時間削減できるよう配慮する。
		情景、気持ちを重ねて	風景にまつわる自分の経験や心情をメモや写真などを手がかりにして振り返り、その思いをあらゆる場面や構図、色彩、材料の使い方などを考えて絵や彫刻に表現する。	5	・制作に必要な資料収集やアイデアスケッチなど、構想を練る活動の補充は家庭で実施する。
				5	・制作に必要な資料収集やアイデアスケッチなど、構想を練る活動の補充は家庭で実施する。
6 ～ 9	A表現 (1)イ (2)ア	メッセージを伝えるポスター	伝えたい内容にふさわしい作品形態や構成、配色や言葉などを考えて表す。	5	・制作する作品の大きさを制限することで、時間削減できるよう配慮する。
	B鑑賞 (1)ア	情報を整理して伝える	情報を伝えるデザインの効果や条件について、具体的に考え、学んだことを基に身近な場所で使われるビクトグラムや、美しく意味が伝わりやすい絵グラフなどをデザインする。	5	・制作に必要な資料収集やアイデアスケッチ、配色計画など、構想を練る活動の補充は家庭で実施する。 ・加工が容易な紙などの材料で制作することで、時間削減できるよう配慮する。
	【選択】		5	・制作に必要な資料収集やアイデアスケッチなど、構想を練る活動の補充は家庭で実施する。	
10	B鑑賞 (1)アイ	絵巻物を楽しむ 1時間	日本美術をより深く楽しめるよう、「鳥獣人物戯画」などの絵巻物の基礎知識を紹介する。	1	
11 12	A表現 (1)ア (2)ア 鑑賞 (1)ア	墨の世界を体感しよう 3時間	水の量や筆の使い方を試しながら構想を練り、にじみやぼかし、かすれなどの墨の濃淡や筆づかいの効果を生かして、表現する。	3	・和紙や障子紙など、強度の強い紙を使用し、様々な表現技法が試せるようにする。 ・教科書や資料集を活用し、多様な表現技法について紹介する。
13 ～ 16	A表現 (1)ア (2)ア 鑑賞 (1)ア	浮世絵から学ぶ江戸の職人技 5時間	着色順や摺り紙によっても効果が異なる一版多色摺り木版画の特性を生かして表す。	5	・制作する作品の大きさを制限することで、時間削減できるよう配慮する。
	【選択】	見方を変えて	遠近や角度、拡大や縮小、反射や影など、自分の身の回りの世界の新しい見方を見つけ出し、絵で表現する。	5	・デジタルカメラやタブレットPCなどのデジタル機器を活用する。 ・制作に必要な資料収集やアイデアスケッチなど、構想を練る活動の補充は家庭で実施する。
				5	
17 ～ 21	A表現 (1)イ (2)ア	みんなのためのデザイン 5時間	身の回りの生活用品や公共施設のデザインについて、使いやすさや安全性に優れた製品から学んだり、ワークシートを活用して身近な製品を自分たちで評価したりする。	5	・制作に必要な資料収集やアイデアスケッチなど、構想を練る活動の補充は家庭で実施する。
	B鑑賞 (1)ア	心をともすあかり	材料の違いによる光の透過などを試して適切な材料を選び、独自の発想を生かしてランプシェードなどを制作する。	5	・加工が容易な紙などの材料で制作することで、時間削減できるよう配慮する。
	【選択】	暮らしの中のキャラクター	自分の身の回りや住んでいる地域、学校生活などに目を向け、立体やグッズへの展開も考えながら特徴や魅力をあらわすキャラクターをデザインする。	5	・制作に必要な資料収集やアイデアスケッチなど、構想を練る活動の補充は家庭で実施する。
				5	

※時間数の精選方法（例）

○同じ領域の題材を選択して扱う。

・例えば、A表現（1）イ（2）アを扱う題材として、「メッセージを伝えるポスター」「情報を整理して伝える」のいずれかを選択して実施する。 など

○加工に時間がかかる材料を扱うことを避けたり、作品の大きさを小さくしたりして、制作時間の短縮を図る。

○題材によって多様な表現技法を提示することで、生徒が表現技法を選択して制作に臨めるようにする。

○製作途中の相互鑑賞は、鑑賞の視点を明確にし、短時間で言うことが考えられる。

○振り返り（制作した作品の鑑賞等）の活動は、休み時間などを利用し、展示された作品を鑑賞することが考えられる。友達の作品に対するコメントは、作品の名札に付箋紙を貼るなどの工夫をすることが考えられる。

○鑑賞の題材を表現の題材の導入等で扱うなど、表現と鑑賞の関連を意識し複合的に行う。

○資料収集やアイデアスケッチ、配色計画など、構想を練る学習の補充は、家庭での課題として扱う。（提出されたアイデアスケッチや設計図などは、「表す」時間の前にチェックし、助言をワークシート等に記入して生徒に返す。